様式-1

第23回日本水大賞　応募用紙

（整理番号：　　）

活動の名称	フリガナ　ｶﾞｯｺｳｼｭｳﾍﾝﾉｽｲｲｷﾖｲｶｼﾀｼﾞｿﾞｸｶﾉｳﾅｷｮｳｲｸｶﾂﾄﾞｳﾉｽｲｼﾝ 学校周辺の水域を生かした持続可能な教育活動の推進									
記入年月日	活　動　主　体					活　動　分　野				
年　月　日	該当する活動主体に〇（1つまで）					主な活動分野に◎（1つまで） その他関連する活動分野に〇				
	学校 （〇）	企業 （　）	団体 （　）	個人 （　）	行政 （　）	水防災 （　）	水資源 （　）	水環境 （◎）	水文化 （　）	復 興 （　）

活動主体の概要

活動主体の名称（個人応募の場合は個人名）	フリガナ　トヨタシリツニシヒロセショウガッコウ 豊田市立西広瀬小学校		
代表者名（団体の場合）	フリガナ　スズキ　ノブアキ 鈴木　伸明	設立年月日	明治６年１１月
所 在 地	フリガナ　アイチケントヨタシニシヒロセチョウ 愛知　都・道府・県　豊田　市・区郡　西広瀬　区・町村		
主な活動地	愛知県豊田市西広瀬小学校近隣の矢作川および丸根山		
組織の概要（個人の場合は履歴を記入）	【水質汚濁調査】　児童、学校職員、水質測定アドバイザー、地域協力者、水辺愛護会 【丸根山ビオトープ】　児童、学校職員、ビオトープアドバイザー、ＰＴＡボランティア、地域企業ボランティア		

応募活動の概要：（文字サイズ10.5pt～、300文字以内で記入して下さい）

西広瀬小学校は、豊田市中央部を南北に縦断する１級河川矢作川の右岸に位置し、周辺には飯野川が流れている。本校の環境教育は、昭和５０年の飯野川清掃から始まった。翌年、川の水質汚濁調査へと発展し、今年で４４年目を迎える。また、校舎に隣接する丸根山にはさらさわ川が流れ、平成２４年から放棄水田を利用した丸根山ビオトープに着手した。そこには、豊田市特別天然記念物のカワバタモロコなどの水生魚類が生息し、大賀ハスの開花も楽しむことができる。児童の学習の場とともに地域住民の憩いの場となっている。校地には、３つの関連施設と校舎３階にはムササビをライブで観察できる場所がある。（資料１）

応募活動のアピールポイント：（文字サイズ10.5pt～、箇条書き100文字以内で記入して下さい）

西広瀬小学校の環境教育は、学校周辺の水域を生かした子どもたちの３つの常時活動にある。

（１）矢作川の水質汚濁調査

（２）放棄水田を利用した丸根山ビオトープ自然観察

（３）ビオトープの頂点に立つムササビの生態調査

これまでの受賞歴：

１９９８：第１回日本水大賞　審査部会特別賞

２０１５：全国学校・園庭ビオトープコンクール２０１５　公益財団法人　日本生態系協会賞

２０１９・２０２０：全国川づくり標語コンクール　２年連続水産庁長官賞

※日本水大賞における

これまでの応募実績：第（　　１　）回、　受賞歴：第（　　１　）回（　審査部会特別　）賞

「日本水大賞」をどこで知りましたか？（数字に〇印を付けて下さい）

１．新聞広告　　２．官庁内ポスター　　３．日本河川協会ホームページ　　４．水大賞事務局からの案内

５．国の機関からの誘い　　６．県・市町村からの誘い　　７．教育関係機関

８．日本河川協会ホームページ以外のインターネットの情報　　９．その他（　　）

（整理番号：　　）

活動の概要

目的：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

矢作川の支流である飯野川を「昔のようにきれいで遊ぶことのできる川にしたい」との児童の願いから始まった飯野川清掃活動が本校の環境教育の始まりである。翌年、「矢作川沿岸水質保全協議会」より児童に透視度測定の依頼があり、今日まで１日も休むことなく測定を続けている。令和２年４月２２日には１万６千日に達した。「矢作川の小さな見張り番」と呼ばれる所以である。

平成２３年頃になると「続けることが目的」となり今後の教育活動の展開が不明瞭となった。加えて、各学年の活動につながりがないことにも気づいた。子どもたちは、学校に隣接する丸根山の田んぼが耕作されなくなってしまうことを知り、その後手の入らなくなった山にはゴミの不法投棄や間伐されない人工林は、大雨で一気に崩壊する恐れのあることを学んだ。平成２４年度には地主さんに頼んで、沢の水（さらさわ川）を放棄水田に引き込んで湿地に変えていった。同時にビオトープに通じる山道を切り開き、丸根山ビオトープ整備に着手した。ＰＴＡボランティアや地域企業のボランティアも加わり、現在も整備が続けられている。ビオトープには、多くのトンボが生息しているため「トンボ王国」と名づけられた。他にも数多くの水生昆虫や両生類などが生息し、子どもたちの自然観察の場となっている。

ビオトープに通じる山道を切り開き、自然散策道に変えると地域の憩いの場にもなり、巣箱にはムササビが棲みついた。平成２９年度にはビオトープの生物の頂点に立つムササビの生態観察のため、巣箱にライブカメラを設置し、校舎３階から直接観察できる場「ムササビ観察ステーション」を設置した。

資料２「西広瀬小学校環境教育全体計画」に示すように、６年間で学校周辺の水を取り巻く里山の自然を満遍なく学習できるカリキュラムを作成し、本校のめざす児童像に迫る教育活動を営みたい。

内容：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

３つの常時活動とその他の活動について資料３・資料４を基にして説明する。

（１）矢作川の水質汚濁調査

６年生・５年生の児童が採水場で採水し、校地内にある「清流の塔」で透視度を測定する。加えて令和元年度よりパックテストによるＣＯＤの測定を開始する。測定値を表示板で地域に公表するとともにＦＡＸで豊田市環境政策課に送信し、矢作川水質調査のデータとなっている。測定は、令和２年度４月２２日で１万６千日を迎えた。土日の調査は地域協力者が行い、採水場の草刈り等の整備は水辺愛護会と本校職員で定期的に行っている。年に１度、飯野川清掃や川遊びを実施している。

（２）放棄水田を利用した丸根山ビオトープ自然観察

１年生は、主にビオトープに生息する生物の種類や数を調べる。３年生は、メダカやカワバタモロコなどの水生魚類に加えて大賀ハスやさらさわ川のほとりに咲くササユリなどの植物の観察を行う。また、観察中ビオトープで休憩できるように「秘密基地」の製作に取り組んでいる。５年生は、校地内の「丸根山ミニ生命館」でビオトープに生息する生物を観察・飼育している。整備は、ビオトープアドバイザーの計画に基づき、主に２つの活動母体でそれぞれ４回行われている。地域の企業のボランティア隊は、さらさわ川の石積み護岸整備や水田の区画整備など比較的規模の大きい整備の担当である。もう１つの地域・ＰＴＡ・教職員によるボランティア隊は、企業のボランティアに先立ち行われ、畦道の修復や除草など企業のボランティアの活動を支援する。

（３）ビオトープの頂点に立つムササビの生態調査

自然散策道の中腹に３つ設置されているムササビの巣箱を６年生は、丸根山に登り、センサーによる巣箱内の温度、外気温を測定し、「ムササビ観察ステーション」から巣箱内の様子を観察している。

（４）その他

４年生は、校地内の「矢作川ミニ水族館」で、矢作川・飯野川で捕獲してきた魚類（ヨシノボリ・オイカワ・カワムツ・カマツカなど）や丸根山ビオトープに棲むメダカやドジョウを飼育・観察している。月に１度、全校で環境教育の伝統を受け継ぐ目的で、上学年の４～６年生が下学年の１～３年生とペアを組み、「３施設ペア学習」を行っている。

また、毎年１月には環境学習の成果を総括する場として「くすのき学習発表会」を開き、企業・地域・保護者を招待している。

活動期間	自　　昭和５０年　７月　～　至　　令和２年　１０月（通算　４５年　３ヶ月）

上記の期間以前から一部の活動を実施していた場合はその期間と内容を下に記入して下さい。

現在も継続している

（整理番号：　　）

活動の必要性・緊急性：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

昭和５０年頃、陶土採掘、山砂採集、ゴルフ場開発、生活排水などのため、矢作川・飯野川の対岸にはヘドロが堆積し、白濁した流れになっていた。本校の環境教育活動の始まりは、「校長先生、飯野川で遊んだり魚を釣ったりできる川にしたい。」との子どもたちの願いからである。河川浄化が原点である。地域住民や地域の企業もこの思いに賛同し、次第に活動の輪が広がり、４５年もの長きにわたり継続している。また、その間、土石流危険渓流域の放棄水田をビオトープに変えようと子どもたちが再び立ち上がり、さらさわ川や自然散策道の開発を進めていった。自然散策道には、この地域の生物界の頂点に立つムササビが棲みつき始めた。未完成ではあるが、西広瀬小学校丸根山学校林（自然散策エリア・ビオトープエリア）へと変貌を続けている。このように学校周辺の水域を利用しながら里山に生活する子どもたちの遊びの場となり、生活科や総合的な学習の時間等の「学びの宝庫」となりつつある。

活動の効果・社会への波及効果：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

・矢作川の水質結果を透視度として清流の塔の表示板で公表している。また、豊田市環境政策課にＦＡＸを送信し、市役所の表示板から市民に知らせている。地道な活動が水質改善に繋がっている。

・ビオトープに大賀ハスを移植した。その結果、美しい花を開花させると同時に、メダカやゲンゴロウ、ヤゴなどの水生生物が増え、それらを捕食するカエルなど豊かな生態系が形成されている。また、イノシシなどの害獣に荒らされるさらさわ川の護岸に石積みをし、流れを安定させることで、サワガニやヒメ蛍が生息し、観賞会を催すことができるようになった。子どもたちの矢作川に対する意識も高まり、令和元年度･令和２年度と２年連続で全国川づくり標語コンクールにおいて最高賞である水産庁長官賞を受賞することができた。今後もこの水域に生息する生物の観察や飼育、保護という活動を行い、自然を大切にする思いを高めさせていきたい。

活動を実施する上での留意点、工夫された点、苦労された点：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

「続けることが目的」となり、今後の教育活動の展開が不明瞭になりかけた時期もあった。加えて、それぞれの活動が単独で行われ、つながりのない状況に陥った。教育活動のマンネリ化である。そこで、活動内容を精選し、資料２に示すような児童が６年間で系統的・横断的に学ぶことができる「西広瀬小学校環境教育全体計画」を作成した。具体的には、矢作川水質汚濁調査やムササビ生態調査では、千日達成ごと（おおよそ３年に１回）に記念式典や記念誌づくりを行う。令和２年度４月２２日に水質汚濁調査１万６千日を達成したが、緊急事態宣言のため６月２９日に式典を挙行した。ビオトープ整備では、毎年イノシシやシカなどの害獣でさらさわ川の法面や畦道等が掘りおこされ、荒らされてきた。加えて今年は、感染症の影響でボランティア活動や整備に伴う寄付金が集まらない。収束している時期に募集をかけ、密とならないように小グループに分け、活動を継続していく予定である。

活動の今後の計画：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

昨年度、自治区と協力し合い地域会議の「交流イベント」で施設見学及び活動説明を行った。地域会議に属している他の小学校区の方々に多数参観していただいた。活動を広めるよい機会となり、今後も開催していきたい。３つの常時活動を継続させるためには、子どもたち及び職員の意欲が不可欠である。環境への取り組みを主題にした道徳の自作教材づくりを進め、本校独自の３つの愛唱歌「水のハーモニー」「守人の歌～命かがやく」「ムササビムー君」を歌い続けていきたい。

また、新型コロナウイルス感染症が収束した段階でボランティア募集をかけ、害獣被害防止のための柵の設置やさらさわ川の石積み作業を行う予定である。

最後に、令和５年度で創立１５０周年を迎える。その創立記念式典で学校林（ビオトープエリア・自然散策道エリア）の完成と水質汚濁調査１万７千日達成を同時に祝いたいと考えている。

応募推薦者（必要な場合にご記入下さい）

氏　名	清水　有樹	**推薦の言葉**：子どもの思いから始まった河川浄化活動が４５年間脈々と受け継がれ、隣接する矢作川やその支流の飯野川の透視度がよくなっています。「矢作川の小さな見張り番」という言葉が定着したことを嬉しく思います。
所　属	水質測定アドバイザー	
氏　名	古田　喜一郎	**推薦の言葉**：休耕田を流れるさらさわ川を有効に活用し、水生昆虫など多様な生物が生息できる自然環境を生かしたビオトープに変わろうとしています。西広瀬小学校丸根山学校林が、一層学校や地域の学習の場・憩いの場とならんことを期待しています。
所　属	ビオトープアドバイザー	